

# 令和7年度丹波の森大学講師紹介

(敬称略)

日時	講師・講義内容
<p><b>5月24日(土)</b> 9時30分～10時00分 ※開講式 10時00分～10時30分 ※学長ガイダンス 10時30分～12時00分 ※講義 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>第1回 講義</b> <b>村上 哲明</b> [ 森が育むキノコの多様性と樹木との共生 ] 天然の森を歩くと、さまざまなキノコに出会います。しかし、キノコ類は種の多様性の解明が最も遅れている生物の一つです。実際、日本国内でも新種や日本未記録のキノコが簡単に見つかります。また、多くのキノコ類は菌根を通じて樹木と共生しており、ほとんどの樹木種もキノコ類との共生を必要としています。このように、森の生態系はキノコと樹木の密接なつながりによって支えられているのです。この講義では、近年DNA解析によって明らかになった、外見では識別が難しい隠蔽種を含むキノコ類の多様性、ならびに樹木とキノコ類との共生関係について紹介します。</p>
<p><b>6月14日(土)</b> 10時00分～11時30分 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>第2回 講義</b> <b>奥野 卓司</b> [ 江戸と上方の鳥と森の文化 ] 兵庫県でコウノトリの再野生化を地域住民とともに成功した山階鳥類研究所所蔵の史料、絵図を中心にして、コウノトリや野鳥の文化誌とともに、今年の大河ドラマで活躍している滝沢馬琴のカナリア、若冲のニワトリ、鶺鴒、鷹狩のことなど江戸時代からの鳥と森と人間の関係についてお話しします。</p>
<p><b>公開講座</b> 丹波OB大学合同開催 <b>7月30日(水)</b> 13時00分～14時20分 丹波の森公苑 ホール</p>	<p><b>第3回 講義</b> <b>中貝 宗治</b> [ ローカル&amp;グローバルの挑戦 ] 我が国において、ローカルであることは、永らく停滞や後進性の象徴の様に思われてきた。しかし今、ローカルであること、地域固有であることは、世界と結びつくことで大きな可能性を持つことが明らかになってきた。そのことを「小さな世界都市」を目指す豊岡の取組を例にお話しします。</p>
<p><b>公開講座</b> <b>8月23日(土)</b> 10時00分～10時30分 ※取組事例 10時30分～12時00分 ※講義 12時00分～12時10分 ※説明 丹波篠山市民センター 多目的ホール</p>	<p><b>第4回 講義</b> <b>天野 康生</b> [ すべてのいのちが、いきいき暮らせる世界のために ～ Panasonic ECO RELAY for Sustainable Earth ～ ] たくさんの生き物が暮らす自然を、よりよいカタチで未来に手渡していきたい。私たちパナソニックグループは、一人ひとりが会社という枠を超え、いち地球市民として、さまざまな環境活動に取り組んできました。1973年に当時の松下電器産業労働組合が「人と自然との共生」を理念として掲げ開村した「ユニトピアささやま」では、かつての里山を再生する取組を行っています。丹波篠山の地で実現したい共創活動についてお話しさせていただきます。</p> <p><b>森本 幸裕</b> [ 温故知新の生物文化多様性 ～ネイチャーポジティブの景観生態学再考～ ] 生物多様性の危機「サイレント・アース」が憂慮される中、自然共生サイトという民間の取組等を認定する制度が始まり、企業活動も自然資本を重視するようになってきました。都市でも温暖化対応、生物多様性確保、ウェルビーイング向上の3つの視点からの街区の緑の評価が始まりました。これらの実効性確保には、地域をベースとした景観生態学の「攪乱が再生する豊かな大地」と「生物文化多様性」の視点が鍵と考えています。</p> <p><b>角野 幸博</b> [ 丹波の森をネイチャーポジティブに！ ]</p>

日時	講師・講義、ゼミ内容
<p>9月6日(土) 10時00分～11時30分 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>第5回 講義</b> <b>平櫛 武 [ 地域でのファシリテーション技術を学ぼう ]</b> 近年、地域をはじめ各種分野（農業、防災、福祉、子育て等）において、会議の状況や意見交換を可視化する「ファシリテーション技術」の必要性が求められています。そこで、丹波の森大学では、各行政機関向けに「ファシリテーション技術」の習得を目的とした研修のための講師を派遣することにしており、令和6年度においても「養成ゼミコース」の実践を行い、参加者からも好評を得ています。特に、行政職員の「ファシリテーション技術」の習得が重要だと考え、行政職員と丹波の森大学生が共に学ぶ研修の場としています。</p>
<p>10月10日(金) 13時30分～16時30分 丹波篠山市民センター 催事場①②</p>	<p>① <b>ゼミ1回目「地域で話をする技術」～リレー・ファシリテーション～</b> 地域住民と話をする際に必要となる、実践技術の基礎的な実践ワークショップです。</p>
<p>10月30日(木) 13時30分～16時30分 丹波篠山市民センター 催事場①②</p>	<p>② <b>ゼミ2回目 [ 地域で話を重ねる技術 ] ～ローリング・ファシリテーション～</b> 地域住民の合意形成を行う際に必要となる、実践技術の応用的な実践ワークショップです。</p>
<p>11月14日(金) 13時30分～16時30分 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>ゼミ3回目 [ 地域で話す場をつくる技術 ] ～サバイバル・ファシリテーション～</b> ③ 地域住民と実践ワークショップを行うために必要となる、実践技術の応用的な実践ワークショップです。</p>
<p>11月28日(金) 13時30分～16時30分 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>ゼミ4回目 [ 地域で話が見える化する技術 ] ～レコード・ファシリテーション～</b> ④ 地域住民から聞いた話を記録する際に必要となる、実践技術の基礎的な実践ワークショップです。受講者のゼミ報告を活用します。</p>
日時	講師・講義内容
<p>10月4日(土) 10時00分～11時30分 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>第6回 講義</b> <b>黒田 慶子 [ 里山の資源利用の再開で森の力を取り戻す ]</b> 「森の力が弱まった」理由は、森の来歴と現状を見ればわかります。里山林（人工林を除く）の大半は昔の薪炭林で、燃料や肥料に使う「資源の森」でした。ところが半世紀ほど前から放置されたため、大木化や常緑化で暗い森となり、ナラ枯れも増えました。人が長年利用してきた森は、放置しても原生林や天然林には戻りません。里山林を健康に持続させるには、資源利用と管理の再開が必要です。現代の生活にあった循環型の資源利用について実践的取組をしており、成功例や今後の構想を紹介します。</p>
<p>11月7日(金) <b>現地学習</b></p>	<p><b>第7回 講義</b> <b>現地学習 [ 福井県 ] 福井県年稿博物館 他</b> 日本海側屈指の要港として栄えてきた、御食国小浜市の古い町なみ散策と、三方五湖の一つである水月湖の湖底で発見された奇跡の堆積物と呼ばれる7万年に及ぶ年稿の成り立ちと考古学の博物館などを見学します。</p>
<p>12月13日(土) 10時00分～11時30分 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>第8回 講義</b> <b>寺戸 英二 [ 神楽の森 ]</b> 篠山神楽社中は、兵庫県丹波篠山市を活動拠点とした石見神楽の団体です。石見神楽とは、日本神話を題材とした、活気溢れる太鼓囃子に合わせて、金糸銀糸を練り込んだ豪華な衣裳と表情豊かな面を身につけて舞う島根県西部の伝統芸能です。今回舞をさせていただきます。恵比寿のニコニコした表情の面と大蛇で登場する須佐之男命<small>すさのみのおこと</small>の衣裳や大蛇の動きに注目してご覧ください。</p>
<p>令和8年 1月17日(土) 10時00分～11時30分 ※講義 11時30分～12時00分 ※閉講式 丹波の森公苑 多目的ルーム</p>	<p><b>第9回 講義</b> <b>角野 幸博 [ 森の力をまちの力に ]</b> 丹波の森とは、市街地や農地を含む丹波地域全体を指す言葉です。ですから「森の力」とは「丹波の地域力」に他なりません。今期全体のまとめとして、講師陣の講義を振り返りながらその要点を解説するとともに、ネイチャーポジティブの理念をまちづくりとしてとらえなおし、丹波の地域づくりに展開する課題と方法を考えます。また、人口減少とともに増加するまちなかの空地の有効活用策について、他地域の事例を踏まえながら丹波地域にどのように応用できるかも考えます。</p>

※プログラム日程は講師の都合で変更することがありますので、予めご了承ください。